



沿革

南国市は高知県の中央部に位置し、土佐の稲作の発祥の地といわれています。田村を中心に遺跡が豊富で、古墳は小丘陵の山上、山麓に存在し80基に及びます。古代律令制度下、比江に国衙が置かれ、政治、文化の中心として栄えました。国司紀貫之が比江に來任したのは延長8年(930年)で承平4年(934年)に任を終え、京へ帰る際に記した「土佐日記」は文学的評価の高い紀行文として知られています。

古代から中世へと時代が移り、1380年に細川頼益が土佐国守護代となると田村が政治、経済、文化の中心となり、さらに戦国時代、長宗我部元親が天正3年(1575年)土佐を平定すると、政治の中心は岡豊に移りました。

江戸時代に入り、山内二代藩主のとき、奉行職にあった野中兼山は、物部川を改修し、舟入川を交通手段とする商業地域とし、そこに入植した者には土地を与え、租税や諸役を免除し、新しい町をつくりました。この町は諸役御免の町、「御免町」と呼ばれ、のちに「後免町」として市の中心市街地を形成しています。

ひもとけば、価値ある「歴史の宝庫」であり、また、その恵まれた自然と環境を生かして、近代以降は、米の二期作と施設園芸を中心に発展しました。

昭和31年には町村合併促進法に基づき、北部の6町村から後免町が、南部の6村から香長村が設置されました。さらに、地勢、交通、産業、経済、および社会的関係が密接な5町村(後免町・香長村・野田村・岡豊村・岩村)が大同合併し、昭和34年10月1日、市制を施行し、ここに「南国市」が誕生しました。



交通アクセス



航空機（高知龍馬空港まで）

東京から約1時間30分
大阪から約45分
名古屋から約1時間
福岡から約45分



自動車（南国I.C.まで）

高松から高速道経由で約1時間30分
岡山から高速道経由で約2時間



JR（後免駅まで）

高松から特急で約2時間
岡山から特急で約2時間30分
高知駅から約15分



路面電車（後免西町電停まで）

はりまや橋（高知市）から約35分

